

『みんなの図書館』2016年2月号（図書館問題研究会2016年1月10日発行）

## 特集「ツタヤ図書館」問題

### 周南市新徳山駅ビル図書館事業に対する最近の動き

図書館友の会山口県連絡会事務局

藤村 聡

周南市の新徳山駅ビル図書館事業に対する要請活動を始めて2年余になるが、今逆風にさらされている通称「ツタヤ図書館」問題の影響は同市にも波及している。当会が4回目の要請活動を実施した11月13日に、この「ツタヤ図書館」計画への賛否を住民投票で問う署名活動を始めようと、10月20日に発足した「山口県オンブズマン市民会議」（以下、市民会議）が、偶然にも当会と同時刻に市へ条例制定請求代表者証明書の交付申請をした。その前後の同会活動を含めて周南市での新駅ビル図書館事業に対する最近の動きとして略報する。

#### 1 11月13日の要請活動

11月13日の要請活動は、午後1時30分から2時30分までの1時間、教育委員会庁舎で教育長（7月末就任）、教育部長、中央図書館長と面談して実施した。当会は代表河井、新南陽図書館友の会代表山本、事務局私との3人で訪問し、今回の要望書（後掲）を簡単に説明しながら読み上げるとともに、過去3回の要望書（2013.10.28、2014.5.22、2015.4.17）と田井郁久雄氏の『世界』（2015.12）論文、片山善博氏の「静岡新聞」（10/30）現論、私の「長周新聞」（11/4）小論の各コピーを手渡した。

教育長はじめよく聴いてはくれたのだが殆んど意見は言われず、当方からこれまでの活動を通して体験学習したまとめとなる、今回の要望理由に挙げたツタヤ図書館の問題点や新駅ビル図書館事業の疑問点を指摘する一方になったのが実情である。

教育長は「就任後3ヶ月余でいろいろな立場の方の意見を聴いて参考にしながら検討していきたい」とのことで、予想どおり全く進展はなかった。市長がまだ定例記者会見でも「CCCと正式には指定管理の契約をしたわけではない」と述べており、教育委員会としてもあまり言えない状況かと推測される。

しかし、市が2016年3月議会で図書館条例改定、9月議会で指定管理者決定という方針どおりに進めるならば、今後次々と教育委員会（図書館）のなすべき手続きが控えており、もちろん新駅ビル図書館との役割分担ほか様々な詰めの作業もある。従来のように市長部局任せでは済まない訳だが、市民会議の動きもあって教育委員会も神経質になっているかと想われる。とにかく、直接責任者となる教育委員会が一旦立ち止まって再考してもらいたいと強く要請した。

NHKと読売新聞の周南支局記者が取材に来たのは（最初に要望書を読み上げるまでと面談終了後）、ツタヤ図書館問題に関心が高まっている証拠だろう。当日夕刻にNHKテレビローカルニュースで、新駅ビル図書館に対する市民会議と当会の活動が取り上げられた。ともあれ、当会がテレビ放映されたのは初！

## 2 「山口県オンブズマン市民会議」の集会

### ① 11月7日の集会

市民会議が11月7日の午後3時から4時15分まで徳山保健センターで開催した集会には約80人余が参加し、新聞テレビ各社報道陣も詰めかけた。

先ず「小牧の図書館を考える会」の福本事務局長が小牧市での住民投票に向けての運動の経過を講演、続いて市民会議の沖田代表が同会立ち上げの趣旨と署名活動等について説明。「図書館は知育の場、営利企業が運営に携わるのは問題。市政を決めるのは市民」と訴えた。会場からの質問も相次ぎ、翌日には新聞各紙が報道して関心の広がりを実感した。この集会を機会に当会との資料交換なども始まった。

しかし、市議会は住民投票に抵抗感が強いらしく、現在の議員構成から判断して住民投票条例の可決は厳しいとも予測されているが、2016年3月議会での条例の議決、5月の市議会議員選挙と同日の住民投票実施を目指すことになる。いずれにしろ、署名活動によって新駅ビルの「ツタヤ図書館」問題に対する市民の関心が強まるものと大いに期待している。

集会には日本図書館協会「図書館の自由委員会」の西河内委員長も山口県が同集会への総合庁舎の会場使用取消をしたという経緯もあって参加された。

11月13日に市民会議が市に対し代表者証明書の申請をしたことも新聞各紙で報道された。署名を集める受任者も確保したとされる。読売新聞(11/12)は「「ツタヤ図書館」周南でも賛否」、中国新聞(11/13)は「揺れる周南「ツタヤ図書館」」と大きく報じマスコミでも注目され始めた。

11月18日から市民会議は新徳山駅ビル図書館計画の賛否を問う住民投票条例請求に向けた署名活動を開始した(12月17日まで)。当日の夕方ローカルテレビ2社(日本テレビ、テレビ朝日系列)でも報道され、YAB山口朝日は沖田代表と市中心市街地整備部長のコメント、市長の11月2日の定例記者会見での発言、市民の賛成・反対の反応、記者のごく簡単なまとめとやや詳しく編集していた。もちろん当日と翌日の新聞各紙にも掲載された。

11月19日に市議会の新徳山駅周辺整備対策特別委員会で指定管理者は公募すると表明された。

## ② 11月29日の集会

署名活動を始めた市民会議が11月29日の午後6時から7時20分まで徳山保健センターで集会を開き、私と新南陽図書館友の会代表山本が報告した。参加者は約80人余。新聞テレビ各社も来場した。

11月26日に当会代表河井と山本の3人で市民会議沖田代表を訪ねて1時間ほど懇談。当会は図書館に特化した団体で市民会議とは異なるが、市民会議が当面図書館に焦点を絞り運動されること、ツタヤ図書館の問題、新駅ビル図書館事業の疑問については共通認識をもっているため、図書館の専門的な側面で協力することで応援していく旨を伝え、11月29日の集会で当会要請活動の考え方についての講演を依頼された。

私は要請活動で指摘してきたツタヤ図書館の問題点や新駅ビル図書館事業の疑問点についての考え方を30分間説明。山本は11月24日に実施した「武雄市図書館と伊万里市民図書館の見学」の印象を報告した。その後沖田代表から署名活動についてごく簡単な報告などがあり、午後7時から20分間の質疑応答では質問が相次いで、ツタヤ図書館導入は全く論外との見解は伝わったようだ。

市民会議については2015年4月の市長選挙で争った元市長の協力など政治的背景を指摘する声もあり(毎日新聞11/30ほか)、署名活動が今後どうなっていくのか不透明ではあるが、5月の市議会議員選挙に向けて新駅ビル図書館事業に対する市民の関心が高まり広がっていくことは間違いない。

11月30日定例記者会見で市長は指定管理者の公募を踏まえながらも、CCCとの連携は継続する方針を変えてはいない。その発言や説明などとともに市民会議の集会の記事が各紙に掲載され、当会の活動や見解についても触れられた。残念ながら市長は相変わらずなのだが、市民会議の運動のお蔭で当会の地道な対話型の要請活動もマスコミが取り上げて報道するようになった。

## 3 今後の活動

11月25日に実施された新徳山駅ビル及び付帯駐車場の建築工事の一般競争入札が不調に終わった。いずれにしる今現駅ビルを2月まで解体中で、新駅ビル建設はこれからであり、2018年の開館までは期間もある。当会としては、今後とも市の動きをしっかりとチェックして、「図書館友の会全国連絡会」等とも協力しながら、市民のための本物の図書館を求めて、粘り強くしつとく要請活動を継続していく決意である。「ツタヤ図書館」が逆風を受けている今を、市の既定路線転換に向けてのチャンスにできればと思う！

当面12月市議会では5人の議員が新駅ビル図書館についてかなり突っ込んだ一般質問もするので注視したい。また、1月31日(日)に山口市立中央図書館友の会主催で、再度田井郁久雄氏を講師に今度は山口県立図書館を会場に「ツタヤ図書館問題を考える」講演会

を開催する予定である。

今後とも情報交換などご支援をよろしくお願いいたします。

---

平成 27 年 11 月 13 日

周南市長 木村 健一郎 様

図書館友の会山口県連絡会  
代 表 河 井 弘 志

### 新徳山駅ビル図書館事業に対する要望書

周南市の図書館事業につきましては、平素よりご尽力を賜り心から感謝申し上げます。私たちの会は、県内各地域の図書館の充実・発展を願い、その事業に協力するとともに、図書館の望ましい在り方を提言するなどの活動を続けている団体です。

さて、貴市では依然として新徳山駅ビルの核施設となる新図書館の計画を、カルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)と連携して進めておられ、知名度と集客力の高いブック&カフェを一体的に運営する「民間活力導入図書館」、通称「ツタヤ図書館」を活用して賑わいを創出し、中心市街地の活性化を目指す既定路線を転換されていません。

しかし、ご承知のように、一昨年以来の要請活動で当会も指摘してきた、ツタヤ図書館に関する多くの問題が実際に浮彫りとなり、厳しい逆風を受けています。

モデルとする武雄市図書館はじめ、10月に開館した海老名市図書館でも不適切な選書の問題が暴露され、新聞・雑誌で批判の渦が広がっています。小牧市ではツタヤ図書館計画に対する住民投票が実施されて、反対多数で見直しを迫られ、契約が一旦解消されました。

武雄市や海老名市では不当な公金・税金の使途をめぐって住民監査請求も起きており、武雄市では契約に関する住民訴訟まで係争中です。要するに、ツタヤ図書館では利益優先のビジネス化、商業化が進められ、市民のための図書館にはならないでしょう。

貴市では従来から中央図書館はじめ、新南陽、福川、熊毛、鹿野の5館と移動図書館で組織網を形成し、市直営による堅実な図書館活動を展開され、生涯学習の中核施設として幼児から高齢者まで多くの市民の日常生活・社会生活の中に定着してきました。

これから図書館は、地域の独自性に根差す持続的なまちづくりのための「地域を支える情報拠点」、地域の歴史や文化を継承し創造していく「知の拠点」として、その役割がますます大切になります。地方創生は「人口増より人材増」と言われていますが、「人づくりの要、

まちづくりの核」としての「本物の図書館」整備を求めて、次の要望をします。

## 記

- 1 周南市の表玄関である新徳山駅の図書館経営を、CCC、ツタヤ書店、スターバックスに委ねる指定管理者制度の計画には、構想の見直しを含め慎重な対応をしてください。
- 2 新駅ビル図書館の計画と運営について、専門家を交えた「図書館検討委員会」を設置し、直営による既存の図書館組織網に位置付けた「市民の図書館」にしてください。

## 要 望 理 由

### 1 ツタヤ図書館の問題点

#### ①虚偽の情報が流布されている問題

武雄市図書館では年間の入館者が約 92 万人、3.6 倍に増加と大宣伝されたが、この人数はツタヤ&スターバックスの利用者も含み、新・旧図書館の比較にはならない。新装後おしゃれな空間と持て囃されるが、ブック&カフェがメインになり、図書館の装飾本位の改造や利用し難い構造（超高書架等）は大問題である。

#### ②商業観光施設で、教育文化施設ではない問題

武雄市民の情報開示請求により、購入図書はCCC傘下のネット古書店からの在庫処分と判明した。武雄蘭学館をDVD・CDレンタル室に改変し、貴重な郷土資料を廃棄など、地域の歴史と文化の継承を無視。集客目的の商業観光施設と化して、教育文化施設としての図書館本来の役割を軽視する、本末転倒の運営が明白になった。

#### ③書店経営と図書館経営が混乱する問題

ツタヤ図書館は独自の図書分類や本の配架をするが、保存への配慮が全く欠けている。書店では販売された本は店頭には戻らない一方、図書館での貸出は返却が前提であり、保存して再提供される。また、ツタヤ図書館では職員が書店員と図書館員とを兼務しており、専門職である司書としての本来の責務を果たせない。

#### ④Tポイント付与のTカード使用の問題

図書の貸出に伴うTポイント付与は連携業者の営利につながり、図書館の無料原則に基づく非営利を条件に、貸出を認める著作権法に違反する。図書館の利用情報が商業用ビッグデータとして流用され、個人情報の流出も危惧される。さらに、子どもがTポイント取得のために自動貸出機を利用する問題だけでなく、いわば金銭で読書を奨励するのはまさに禁じ手であり、教育機関としての根本が問われる。

#### ⑤指定管理者制度自体の基本的な問題

営利企業である指定管理者が収益事業でない図書館を管理運営するのは本来矛盾す

る。コスト削減を図るために、皺寄せはワーキングプアの拡大につながり、多数の非正規職員が低賃金で年中無休の終日開館に対応する厳しい交替勤務となる。5年間の指定管理期間では、長期的な蔵書構成や目的に応じた職員養成を大変難しくする。図書館間の協力、学校や関係機関との連携、市民ボランティアとの協働も困難になる。

## 2 新徳山駅ビル図書館事業の疑問点

### ① 事業の計画立案者が指定管理候補者の疑問

事業の企画立案者CCCが最初から有力な指定管理候補者とされている。形式的な公募によって、事実上の特例指定となる出来レースの構図であり、公平公正に欠ける。周南市の顔となる新駅ビルの核施設である図書館の計画を、専門家でないCCCに委ねるのも問題であり、市民と専門家を交えた図書館検討委員会を設置するべきである。

### ② 新駅ビルが特定企業に便宜供与される疑問

新駅ビル建設には多額の経費・税金がかかる。ブック&カフェの賃料は取るにしろ、至れり尽くせりで誘致し、一体的に運営する図書館の指定管理料を支払い、店舗経費（空調費等）も負担して営業させるのはCCCへの便宜供与の構図となる。しかも、図書館経営の蓄積の無いCCCが指定管理者になって、いま多くの批判を浴びているツタヤ図書館にしてしまうのは論外であり、公共施設としての基本が問われる。

### ③ 企業のビジネス戦略に利用される疑問

地域に根差さない借り物の計画では、新駅ビルの賑わいや中心商店街への波及効果も、一時的に過ぎず持続性は期待できない。逆に、図書館が営業営利のため商業的に利用され、特にTカード普及のビジネス戦略に組み込まれて、公立図書館とは異質な偽装表示の図書館となる。客足が遠のけば撤退し、原状回復も困難になる。

### ④ 既設五館と役割分担や連携が混乱の疑問

新駅ビルは中央館と約800mの距離で、特区的に考えるとしても、ツタヤ図書館との役割分担や連携が混乱するのは必至と予測される。さらに、新南陽館も今年5月に新館開館したばかりであり、図書館運営経費が増大する中で、今後新駅ビル図書館が優先される危惧もある。既存館とのスムーズな連携や既存館自体の混乱を避けるためにも、従来の直営による組織網に位置付けた本物の図書館にするべきである。